

明るい子 かしこい子 たくましい子

元気がある 夢がある 楽しい学校 中央小



中央小だより

令和6年度 冬休み号

蕨市中央6-8-25

Tel 442-2672

児童数	(名)
計	392

冬でも楽しみ～見えたらうれしい 流れ星～

校長 原田 卓治

いよいよ冬休みが始まります。皆様はどのようにお過ごしになるのでしょうか。

日本では、年間を通して、流れ星(流星群)を見ることができます。

日本天文台のホームページによりますと、「流星(「流れ星」とも言います)とは、宇宙空間にある直径1ミリメートルから数センチメートル程度のチリの粒が地球の大気に飛び込んできて大気と激しく衝突し、高温になってチリが気化する一方で、大気や気化したチリの成分が光を放つ現象」とのことです。

そして、「彗星はこのようなチリの粒を軌道上に放出していて、チリの粒の集団は、それを放出した彗星の軌道上に密集しています。彗星の軌道と地球の軌道が交差している場合、地球がその位置にさしかかると、チリの粒がまとめて地球の大気に飛び込んできます。地球が彗星の軌道を横切る日時は毎年ほぼ決まっていますので、毎年特定の時期に特定の流星群が出現するわけです。」と記載されています。

この冬休みに見ることができるのは、「しぶんぎ座流星群」で、三大流星群の1つです。現れるのは、12月28日～1月12日で、1月3日の夜頃には最も多く見ることができ、夜空の暗い場所で観察したときに、1時間あたりに見られるおよその予想流星数は 30 個とのことです。しかし、街明かりの中や、1月3日ではない日の場合には、数分の1以下となるとのことです。

過去、私も12月14日頃に最もよく見られる「ふたご座流星群」を、家の近くの荒川河川敷で、寝そべりながら眺めたり、林間学校で行ったわらび山荘の外ベンチで眺めたりしました。多くの流れ星が流れて、その美しさに見惚れ、不思議な感覚になったのを覚えています。

先日13日の夜にあった「ふたご座流星群」は、私の家からは残念ながら見ることはできませんでした。

是非、この機会に夜空を眺めてみてはいかがでしょうか。

たくさん星が流れたら、願い事もたくさんかなうかも知れませんね。